

エビ目(十脚目)モクズガニ科

ハマガニ

Chasmagnathus convexus (De Haan, 1833)

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵26

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

日本海側では島根県と鳥取県に分布。県西部・東部や隠岐諸島で生息が確認されていたが、近年はほとんど確認例がない。現在、生息が確認されているのは、県東部と隠岐島後の日本海に面した一部の河口域だけである。生息地域が局所的であり、生息数も少ないことから県内における絶滅が危惧される。

【概要】

甲幅50mmほどに達する大型種。甲は横に丸みを帯びた四角形で、前後に湾曲する。甲面は短毛で覆われ、中央には深い溝がある。甲は紫色を帯びた褐色。甲の前側縁には2つの切れ込みがあり、眼窩外歯を含めて3歯ある。はさみ脚は大きく、鮮やかな紫色で全体に毛は少なく、平滑である。歩脚は細く上縁に短毛が密生。夜行性で、河口の汽水域上部付近のヨシ原や土手などに深い穴を掘って生息している。ゾエア幼生は海に放たれ、メガロバ期に海岸河口域に戻ってくる。宮城県から沖縄諸島、

朝鮮半島、中国大陸沿岸、台湾に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

過去の報告では、県西部と隠岐島前で生息が確認されていたが、近年、県西部および隠岐島前での生息は確認できていない。また、現在、生息が確認できている県東部や隠岐島後においても生息数はごくわずかで、目撃情報も極端に少ない。日本海に面した河口の汽水域上部付近にある土手に深い穴を掘って生息している。県内の生息地では、タヘイガニやタカバガニ、ダケガニなどの地方名で呼ばれている。

【存続を脅かす原因】

河川改修やコンクリート護岸化による生息地の消失、護岸による海への移動経路の消失など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域					海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○		○	○																			○

甲殻類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足